

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 _____ グループホームすずらん日向 _____

(ユニット名) _____ 日向I _____

記入者(管理者)
氏名 _____ 橋本 好博 _____

評価完了日 _____ 20年 5月 26日 _____

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着した理念というよりも、利用者個人を主体とした理念になっている。地域とのかかわりは意識している。	○ 地域の中の一員という大切な部分を職員がもう一度理解して、その上で理念に転換していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に一度のCW(ケアワーカー)会議を開きお互いの意見を聞きながら目標を決めて取り組みを行っている。管理者より連絡事項として月に1回、職員へ理念や現在必要な事柄を伝えている。	理念を職員が必ず見るであろう箇所(日誌・連絡帳)に大きく書いておく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の四季折々の移り変わりを、利用者と家族を交えて地域の牡丹園などに行くことで今、住んでいる町のすばらしさを共感する。ホームの周辺の店舗に買い物に行くことにより馴染みの関係が出来、挨拶を交わすなど大切な生活の一部になっている。ことのはネットの設立。	家族・地域から小さなことでも相談できる環境を整えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職場の玄関にて行きかう人達に積極的に挨拶をし、会話を重ねることにより、隣近所の方々から挨拶がしやすい状況を作っている。隣組の集会などに参加をしている。	常に挨拶を心がけ、関係性をより深めていく
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで開かれるボランティアによる歌謡曲披露や日舞などに地域から団体を積極的に受け入れている。行事参加にも利用者が参加していたものについては必ず参加出来るようにしている。	運営推進会議を活用し、地域の情報などを常に入れておき、勤務なども外出できる工夫をしていきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ホームで主催する夏祭りに、地域の高齢者が参加していたが、まだまだ地域の高齢者に関しての話し合い、取り組みは少ない。</p>	○	<p>地域に発信できるように、自分たちに今何が出来るのかをしっかりと話し合って小さいことから実施していきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価はユニットリーダーが中心となり、まとめ、自分たちのケアの点検をし、出来ていない部分を改善できるようにしている。</p>		<p>常に満足することなく、自分たちのケアの点検をしていきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>集会所を利用して会議を開きプロジェクターなどを使用し、参加している方がわかり易くイメージ出来る様な会議を開いている。</p>		<p>サービスの内容を正確に伝え、率直な意見を聞ける雰囲気を継続していく。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>法人事務局を中心に、事業所内だけではなく、地域ネットワーク「ことの葉ネット」を活用し他の事業所と協力して、サービスの向上に努めている。</p>		<p>地域の中で必要とする情報をしっかりと聞き、地域に必要とされる事業として取組んでいきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>内部研修等で権利擁護について学ぶ機会を設けているが、言葉だけの理解になっている部分がある。</p>	○	<p>言葉だけの理解ではなく、実践し家族や地域の人にも発信していけるように努めたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待については、管理者・リーダーを中心に職員同士しっかりと点検している。虐待防止法に関しては概要だけの説明になっている。</p>		<p>虐待に対しては絶対にいけないことというおもいは共通して持っているものの、高齢者虐待防止関連法の概要だけではなく、中身を内部研修を開きしっかりと共通認識していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の説明や理念を説明し、入居申し込み、契約をしている。又、終了時は本人の事を最優先に考え本人の意思や思いを含め家族と相談している。	申し込みの際は、「早く入れて欲しい」と緊急性を持ってきており、グループホームの理解・認知症の理解が不安に思うことがあるので、丁寧に説明して行きたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の要望は極力聞けるようにしているが、外部への意見を述べる機会がない。	利用者からの要望を聞けるように、コミュニケーションを綿密にとりあいたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度、各担当者がご家族に「1ヶ月日記」(生活の様子)と1ヶ月の出納帳を送付している。又、職員の異動などは行事にご家族が集まった時に報告をしている。	家族が必要とする情報をしっかりと伝えていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の要望は極力聞けるようにしているが、外部への意見を述べる機会がない。	家族会を定期的(行事の時を利用)に開催し、より良いホームとなるように一緒に考える機会をつくりたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の中や会議で職員が実施したいことなど要望や意見を取り入れている。	個人面接・職員会議を含め意見を言える機会を多く作っていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出やお墓参り、地域の行事の時は勤務人数を増やし対応している。しかし、限られた人数の交代勤務なので、すべての変化に対応できているとは言いがたい。	限られた職員の中で、利用者・家族の要望に答えられるようにしていきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職者と新しい職員の勤務が重なるように配慮をして、利用者の方の特徴や思い等を共有できる時間を作っている</p>		<p>利用者の見えない不安・訴えることが出来ない気持ちをしっかり捉え、新しい職員を迎えていきたい。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修を設け、その中でも自主研修と基礎研修に分け年間計画を立てている。又、日々の気付き・新しい情報などを提供していく。しかし、研修会は夜（19時）からの実施になっている。</p>		<p>経験別に研修を組み立てていくと同時に、個人の目標を設定していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>認知症グループホーム連絡協議会の研修会に参加できるようにしている。又、興味のある職員には、地域ネットワークへの参加も呼びかけている。</p>		<p>研修会を通じて、他事業所との交流できる機会を継続していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>記録を書く時間を設け、極力定時で帰るようにしている。しかし、ストレスを軽減できる工夫や環境作りはおこなわれていない。</p>	○	<p>職員のストレスをどの部分を解消すれば良いのか、職員に要望などを聞きながら一緒に考えていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>専門職として必要な知識を獲得出来るように、認知症ケア専門士の資格取得に向けて受験料を補助したりしている。又、新しい情報・必要な情報は常に提示している</p>		<p>個々の目標をしっかりと理解し、専門職としての自覚が持てるように援助していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)	/	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	色々と教えていただきながら(縫い物・畑仕事)一緒に考え関係作りに努めている。又、本人の気持ち表ししやすいように、関係作りに努めている。	その方の出来るところまで手を出してしまうので、その方の自信が奪われないように、出来ること・出来ないことを確認していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	色々相談して、その方々が安心できるように一緒に考えて頂いている。		家族の方と一緒に、その方の生活を共に支えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事などにも参加していただき楽しい時間を過ごせるようにしている。又、家族の方から色々な話を聞かせていただき、その方の理解に努めている。		居心地の良い環境を整えていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方が思い出としている場所へ、家族の方と出かけたりしている。又、行事などにも参加していただき楽しい時間を過ごせるようにしている。		少しでもその人が、関わっていた方・大切にしていた方と関係が途切れないようにしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの性格などを理解して、入居者同士の方がお互いに同じ場所に住んでいる仲間として過ごせるように職員が間に入ったりしている。	○	その方々同士が、その人が居ると安心と思えるような関係を築いていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	1年間入退去の異動がない。		サービスが終了しても関係性が保たれるように行事等の案内をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、センター方式の用紙を活用し、本人の言葉・思いをそのまま言葉で記入し、本人の視点を大切にしている。	○	センター方式を中心に本人の思いや声をしっかりと聴くことを忘れないようにしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のファイルを作り本人の生活史や診断書など一つのファイルにまとめ、把握しやすいようにしている。		家族の方が面会に来た時には、色々な話を聞き利用者の方が歩んできた道をしっかりと理解してケアに活かしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	必要に応じてセンター方式を活用し、出来ること出来ないことを見極めている。ただ、大きな囲みの中でしか出来ること・出来ないことを把握していない。	○	出来ること・出来ないことをもっと細分化して見極めていきたい。(別シートを独自に作る)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見を聞きながらその方の暮らしを大切にしていけるようにしている。又、その方が暮らすアイデアを考えるシートも使用している。	○	本人・家族の思いをしっかりと反映しその方の思いに添った介護計画を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを実施している。又、状態が変化があった時などは家族の方に相談している。記載漏れが時々ある。		面会に来た時など、家族の要望や本人の状況を確認しながら計画に反映できるようにしていきたい。又、些細なことでも必ず記録をするように努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の方法を工夫しており、職員が書きやすくわかりやすいようにして、その方の言葉を残せるようにしている。	○	記録の必要性を理解し、必要な情報を記入できるように日々の記録を工夫していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近所の派出所にホームにいる利用者のことを伝えており、特別な状況においての協力依頼している。又、消防署より設備指導など定期的に受けている。	○	地域資源を活用して、本人の安全や生活範囲の拡大が少しでもおこなわれるようにしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて連絡を取れる体制が整っているが、他のサービスを利用はしていない。		現在、他のサービスを利用するといった考えが出来てなく利用者を考えどのようなサービスが現在あるのか?といったことを学ぶ必要がある。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂き、相談をさせて頂いているが、長期的なマネジメントなど協働はしていない。		まずは地域包括支援センターの方々とのコミュニケーションをはかりたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医をもち、状況によって家族も交えて話し合いをしている。内科・歯科などは定期的に(1ヶ月に1度)往診をして頂き、急変時にもすぐに連絡が取れ、往診など対応して頂いている。		今後も協力医療機関と連携を図りたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	直接的な支援はないが、管理者を通じて質問や相談出来ている専門医を確保している。		適切な治療や診察が出来るように、協力医療機関の先生に小さな疑問をぶつけていながら受診や相談をしていきたい。
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際には、毎日職員が病院へいき馴染みの顔を見てもらい、少しでも安心してもらえる時間を作る。認知症という疾患を病院側に説明をし、ホーム側でも迎える準備(ケアプランの変更・居室の環境づくり)をして、早期の退院をすすめる。		入院などないように日頃の健康チェックや安全を守っていきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族には、ホームに来られた際、現状を伝えると共にこれから予想される事柄も伝えている。ターミナルを控えた利用者のかたには会議を開き方針などを共有している。	○	定期的にご家族(個別)と話し合いの場所をつくり話をしていく機会を増やしたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	CW(ケアワーカー)会議を開いて管理者のもと様々なことを確認し合い支援に取り組み、状況変化に応じて検討をし再確認する。		グループホームで出来ること・やれることをしっかりと確認し家族と常に話し合いながら、グループホームで出来ることをしっかりと行なっていき、かかりつけ医と常に連絡を取りながら支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前調査を綿密にすることにより、利用者本位の今出来る最善方法を考えている。又、必要なものは家族の方に相談して、住みやすい環境を整えている。		過ごしやすい環境と安心できる環境には何が必要か、その方の思いをしっかりと受け止めて不安を最小限にしていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時、又は失禁時の対応として適切な言葉で対応している。本人のプライド、又は周りの状況などを把握して行っている。記録の個人情報に関しては守秘義務を守り記録を保管している。		今後も職員同士がしっかりと点検して、利用者の方がプライバシーを保護していきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が外出したい、夕食に何を食べたい、という生活している方と一緒に考え、決めていただいている。又、小さな事でも自分で決められるような疑問形の質問をするように心がけている。		その方が自分の思いを表現したり、その人の思いに添った自己決定が出来るように、信頼関係を築いていきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース・希望を大切にしながら行なっているが、入浴の順番など職員のペースで過ぎていくこともある。		希望・思いを聞きだしながら、その日を大切に過ごしたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	本人の通っていた美容室や床屋など家族が付き添うか職員が同行している。髪型など家族や本人の要望を聞き季節や行事などを考慮して通っている。衣類を着る際も本人に聞きながら選んでいただく。		出来ない部分をしっかりと見極めて、おしゃれが出来るように今後していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方が食べたいものなど希望があるときは、その料理と一緒に作ったりする。又、旬の食材を活用し、季節の話をして準備したりしている。片付けもお互い協力して行なっている。		その方の力をどのように引き出すかその方に合った対応をしていく。(テーブルに野菜を出して何を作るかわかるように、手を出しやすい環境を作る)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の思考を聞きながら料理をしている。又、家族の方に料理を作って来て頂き、その方が慣れ親しんだ味を職員も勉強している。	○	その方の嗜好の変化に気づきながら、今後も支援していく。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを掴むために、排泄記録表を毎日つけその方が不快な思いをせずに排泄できるように心がけている。水分量と排泄量のバランスも必要な方は記録している。	○	その方の訴えや排泄記録をもとに時間でトイレ誘導しているが、まだまだ気持ちよく排泄できてないので、気持ちよく排泄できるように支援していきたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により入浴したいときに入浴できるようにしている。しかし浴槽が一つの為にトラブルになり入浴の順番は職員が希望を考慮して調整してしまう時がある。	○	楽しんで入浴が出来るように、入る前から楽しい雰囲気を作りたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中散歩に出かけたりし夜間気持ちよく眠れるように支援している。又、お昼休みなども音楽を聴きながら休んで頂いている。		和室を活用し、静かな空間を作れるようにしていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	生活歴を考慮したうえで本人の意欲を引き出せるようなこと(畑仕事をしたり・洗濯・外出等)をしている。		一人ひとりの役割や張り合い、楽しみのある生活を送って頂けるように支援していく。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>本人が買いたいものがあったり、お孫さんにお小遣いをあげたい時は出せるようにしているが、自分が預けている事を忘れてしまう時がある。</p>	○	<p>事務所でお小遣いを預かっているので、お金を意識できる状況作りがまだまだあるので会議などで検討していきたい。</p>
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>買い物など1日何回か出かけるので、一緒に外出できる機会を作っている。</p>		<p>いつでも外に出かけられるような環境と気軽に「行ってくるから」と言える関係作りをして行きたい。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>白河のダルマ市・南湖公園の花見などその方の希望を聞きながら、外出の機会を支援している。</p>		<p>その方の思い出の場所など、家族の方と一緒に行ける機会を今後も作って行きたい。</p>
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>本人が日常生活に必要なものを家族に電話できるようにしている。又、手紙の返事を絵葉書と一緒に書いている。</p>		<p>電話を使う、手紙を書くという機会を多くもてるように行事や出来事の際は連絡できるようにしていきたい。</p>
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>気軽に訪問できるような環境づくりの為に、行事を大切にしホームとの関係作りをおこなって行きたい。</p>		<p>ホームに来られた際、居心地が良い空間作りがまだ足りない。(和室などを活用していきたい。)</p>
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の情報などを職員の掲示板に張り理解を深めている。</p>		<p>職員の考えではなく、しっかりと法律・基準を新しい職員にも理解して頂きケアに取り組んでいきたい。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開放しており、気軽に外に行ける様にしている。夜は防犯の為に閉めている。		その方の気持ちを常に考え、今どのような気持ちでいるのかをしっかりと認識しながら、ケアに取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士が声を掛け合い、情報を密にし利用者の所在や様子を把握している。		関わりすぎている部分もあるので、個人の時間を大切にしていきたい。又、リビングや居室の整理をしていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	すぐに使用したいものはわかりやすい位置に、漂白剤等危険物はリネン室又は手の届かない高い位置に保管してある。		利用者一人ひとりのアセスメントをし、どこまでその道具が利用者にとって危険か、把握する必要がある。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険回避のため、利用者によっては家族と相談し、居室ベッド下にセンサーマットを設置している。そのほかに研修やケアカンファレンスを開催している。		転倒を減らすために、どのような環境や気をつけること、又、日頃のヒヤリハットを活かしリスクセンスを高めていきたい
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルがあり確認し合っている。定期的に救急救命措置の講習に参加をしている。		研修やマニュアルを活かして今後も実施したい。又、新職員には訓練の機会を設けることが出来ていないので実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練を行い、職員の役割や避難経路の確認をしているが、夜間想定・場面設定での避難訓練はまだ不十分である。地域の方には運営推進会議の中で協力を呼びかけている。	○	場面設定をし、定期的に訓練を実施していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	管理者・ユニットリーダーによりご家族との話し合いをもうけ理解して頂けるよう努めている。	○	居室の空間・現在の身体状況を踏まえて安全に暮らせるように相談していききたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行っており、利用者の変化に気遣うようにし、ケース・温度版に記入し変化が見れるようにしている。又、体調の変化があった時はかかりつけ医に相談している。		継続して日々の様子を常に観察していくようにしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がそれぞれ処方箋に目を通せるようにファイルが用意されている。薬の変更がある際申し送りをおこなっている。又、DBGの用紙を使用し、薬が変更になった時の変化を記入し、主治医の先生と相談している。		薬の副作用・効果を確認し、主治医の先生と適切な薬が処方されるように相談していききたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品など摂取できるようにしている。又、軽運動を取り入れている。しかし、排泄に関する知識が不足している。	○	研修を受けそこで得た知識を職員におとし、実践できることを模索していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎月歯科往診を受け口腔内の衛生を保っている。しかし、毎食後の口腔ケアは支援出来ている人と出来ていない人がいる。		まずは就寝前から、口腔ケアを必ず行い、徐々に毎食後実践していききたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	少しでもその利用者に合った食べやすいものをと考えソフト食を活用している。又、その方が食べやすいようにその方の食べ方などをよく観察している。		記入漏れなどせずに、その方の食事を楽しく食べられるように職員で情報を共有していききたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが作成してあり、実行している。		感染症に関しては十分注意しかなりしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生鮮食品は毎日買い物へ行き、夜間帯に冷蔵庫の中をチェックし期限切れなどの確認、調理器具をハイターなどで消毒している。食器や箸などについては1日1~2回は洗浄機にて消毒している。		器具の衛生をしっかりと管理していきたい。
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの玄関には色々な花を植えたり、手入れをしている。又、ベンチを置いていつでも座れるようにしている。ただ、草が伸びるのが早く草むしりがおいつかない時がある。		気軽に立ち寄れる環境を常に意識して行きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の出るような花を中庭に植えている。廊下には行事や外出した際の写真をはり、利用者の興味をひき、天窓を設けることで外の光をふんだんに取り込んでいる。	○	その方の状況に合わせて環境を整えていきたい。トイレなどは特に使いやすい環境を考えていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	季節の花を置いたり、環境を和ますような配慮をしている。音楽など好みがありリビングで聞いている時には、音の大きさなど配慮できていない時もある。		共有空間を使いやすいように、ソファの配置など配慮していきたい。又、音に関しても気を使い雑音にならないようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>以前使っていたものを持ってきて頂いたり、少しでも以前の生活に近づけるように居室の空間を配慮している。又、写真・花などを飾りゆつくりと過ごせるようにしている。</p>	○	<p>一人ひとりが馴染みの場所になるように、使いなれた物・何か安心できる物を見つけられるようにしていきたい。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>ホーム内だけで温度計・湿度計を約10箇所設置して状況を把握している。又、臭いに関しては特に気をつかい、使用済みオムツなどはその都度新聞紙に丸め捨てている。</p>		<p>室温・湿度などは生活の中で影響を与える部分があるので、しっかりと管理していきたい。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>日常で感じたヒヤリハットをインシデントレポートとして記録に残し、危険な事を減らしていくようにしている。リビングや居室に物を置く時は、出来るだけ入居者の目に入る高さに置くことで、転倒等の危険防止を配慮しつつ、生活意欲を失わないようにしている。</p>	○	<p>居室の環境を入居者と相談し、危険防止にとりくみながら、本人が望んでいる形にしていきたい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>生活面においては、トイレや浴室の表示をしている。又、入居者の状態によっては、居室のプレートの他に伝わりやすいように表示している。リビングや居室では、行事の雰囲気作りを行っていくことで、季節感を感じてもらえるようにしている。</p>	○	<p>一人一人の過ごしやすい空間作りは、これからも追求していきたい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭に季節の花を植えていることで、入居者と職員が外で一緒に過ごしたり、入居者が自由に行き来している。畑にて野菜を栽培し、種まきから収穫まで入居者が行っている。パーベキューなどの企画も行っている。</p>	○	<p>車椅子でも花などの手入れがしやすいように、棚などを設置し環境を整えていきたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他 ()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他 ()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他 ()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他 ()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方一人ひとりに対して、その方が生きている実感が持てるように全力で考えています。日常の些細な事、掃除、味噌汁作り、洗濯干しなどその中で役割を持って頂けるようにしたり、趣味を継続して支援したりしています。又、一人ひとりが心地よい時間が持てるように室内の環境やその方が昔作業していた音などを表現しています。一人ひとりの個性を大切にしながら、利用者の方々のコミュニティーを大切に、職員よりも利用者の方同士がお互いの心の支えになるように関係性作りをしています。そのために、専門職としての自覚と自信がもてるように、研修など自己を高める努力をしています。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 _____ グループホームすずらん日向 _____

(ユニット名) _____ 日向Ⅱ _____

記入者(管理者)
氏名 _____ 橋本 好博 _____

評価完了日 _____ 20年 5月 26日 _____

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着した理念というよりも、利用者個人を主体とした理念になっている。地域とのかかわりは意識している。	○	地域の中の一員という大切な部分を職員がもう一度理解して、その上で理念に転換していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に一度のCW(ケアワーカー)会議を開きお互いの意見を聞きながら目標を決めて取り組みを行っている。管理者より連絡事項として月に1回、職員へ理念や現在必要な事柄を伝えている。		理念を職員が必ず見るであろう箇所(日誌・連絡帳)に大きく書いておく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の四季折々の移り変わりを、利用者と家族を交えて地域の牡丹園などに行くことで今、住んでいる町のすばらしさを共感する。ホームの周辺の店舗に買い物に行くことにより馴染みの関係が出来、挨拶を交わすなど大切な生活の一部になっている。ことのはネットの設立。		家族・地域から小さなことでも相談できる環境を整えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職場の玄関にて行きかう人達に積極的に挨拶をし、会話を重ねることにより、隣近所の方々から挨拶がしやすい状況を作っている。隣組の集会などに参加をしている。		常に挨拶を心がけ、関係性をより深めていく
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで開かれるボランティアによる歌謡曲披露や日舞などに地域から団体を積極的に受け入れている。行事参加にも利用者が参加していたものについては必ず参加出来るようにしている。		運営推進会議を活用し、地域の情報などを常に入れておき、勤務なども外出できる工夫をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームで主催する夏祭りに、地域の高齢者が参加していたが、まだまだ地域の高齢者に関しての話し合い、取り組みは少ない。	○	地域に発信できるように、自分たちに今何が出来るのかをしっかりと話し合って小さいことから実施していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニットリーダーが中心となりまとめ、自分たちのケアの点検をし、出来ていない部分を改善できるようにしている		常に満足することなく、自分たちのケアの点検をしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	集会所を利用して会議を開きプロジェクターなどを使用し、参加している方がわかり易くイメージ出来る様な会議を開いている。		サービスの内容を正確に伝え、率直な意見を聞ける雰囲気を継続していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人事務局を中心に、事業所内だけではなく、地域ネットワーク「ことの葉ネット」を活用し他の事業所と協力して、サービスの向上に努めている。		地域の中で必要とする情報をしっかりと聞き、地域に必要とされる事業として取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部研修等で権利擁護について学ぶ機会を設けているが、言葉だけの理解になっている部分がある。	○	言葉だけの理解ではなく、実践し家族や地域の人にも発信していけるように努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、管理者・リーダーを中心に職員同士しっかりと点検している。虐待防止法に関しては概要だけの説明になっている。		虐待に対しては絶対にいけないことというおもいは共通して持っているものの、高齢者虐待防止関連法の概要だけではなく、中身を内部研修を開きしっかりと共通認識していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事業所の説明や理念を説明し、入居申し込み、契約をしている。又、終了時は本人の事を最優先に考え家族と相談している。</p>	<p>申し込みの際は、「早く入れて欲しい」と緊急性を持ってきており、グループホームの理解・認知症の理解が不安に思うことがあるので、時間を掛けて対応していく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者・家族の要望は極力聞けるようにしているが、外部への意見を述べる機会がない。</p>	<p>利用者からの要望を聞けるように、コミュニケーションを綿密にとりあいたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1度、各担当者がご家族に「1ヶ月日記」(生活の様子)と1ヶ月の出納帳を送付している。又、職員の異動などは行事にご家族が集まった時に報告をしている。</p>	<p>家族が必要とする情報をしっかりと伝えていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者・家族の要望は極力聞けるようにしているが、外部への意見を述べる機会がない。</p>	<p>家族会を定期的(行事の時を利用)に開催し、より良いホームとなるように一緒に考える機会をつくりたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常の中や会議で職員が実施したいことなど要望や意見を取り入れている。</p>	<p>個人面接・職員会議を含め意見を言える機会を多く作っていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>外出やお墓参り、地域の行事の時は勤務人数を増やし対応している。しかし、限られた人数の交代勤務なので、すべての変化に対応できているとは言いがたい。</p>	<p>限られた職員の中で、利用者・家族の要望に答えられるようにしていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者と新しい職員の勤務が重なるように配慮をして、利用者の方の特徴や思い等を共有できる時間を作っている		利用者の見えない不安・訴えることが出来ない気持ちをしっかり捉え、新しい職員を迎えていきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を設け、その中でも自主研修と基礎研修に分け年間計画を立てている。又、日々の気付き・新しい情報などを提供していく。しかし、研修会は夜（19時）からの実施になっている。		経験別に研修を組み立てていくと同時に、個人の目標を設定していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム連絡協議会の研修会に参加できるようにしている。又、興味のある職員には、地域ネットワークへの参加も呼びかけている。		研修会を通じて、他事業所との交流できる機会を継続していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	記録を書く時間を設け、極力定時で帰るようにしている。しかし、ストレスを軽減できる工夫や環境作りはおこなわれていない。	○	職員のストレスをどの部分を解消すれば良いのか、職員に要望などを聞きながら一緒に考えていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	専門職として必要な知識を獲得出来るように、認知症ケア専門士の資格取得に向けて受験料を補助したりしている。又、新しい情報・必要な情報は常に提示している		個々の目標をしっかりと理解し、専門職としての自覚が持てるように援助していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)	/	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの、出来るところ・出来ないところを理解し利用者の行動を安全面では見守りや対応はしているもそれ以外は本人の行動・力を奪うことのないようにしている。そのような状況のなかでは自然と支えあう関係性が生れている。	利用者の出来ること・出来ないことを細かく確認していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	色々相談して、その方々が安心できるように一緒に考えて頂いている。		家族の方と一緒に、その方の生活を共に支えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事などにも参加していただき楽しい時間を過ごせるようにしている。又、家族の方から色々な話を聞かせていただき、その方の理解に努めている。		居心地の良い環境を整えていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方が思い出としている場所へ、家族の方と出かけたりしている。又、行事などにも参加していただき楽しい時間を過ごせるようにしている。		少しでもその人が、関わっていた方・大切にしていた方と関係が途切れないようにしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの性格などを理解して、入居者同士の方がお互いに同じ場所に住んでいる仲間として過ごせるように職員が間に入ったりしている。		その方々同士が、その人が居ると安心と思えるような関係を築いていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	1年間入退去の異動がない。		サービスが終了しても関係性が保たれるように行事等の案内をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で体調、希望を考慮し買い物に出かけたり散歩、ドライブなど一日の終わりに不安が残らないように努めている。職員が利用者の生活歴や普段の会話などから利用者の思いや希望を把握し毎日の生活の中に当てはまるように導いたり、促している。	センター方式を中心に本人の思いや声をしっかりと聴くことを忘れないようにしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活記録を読み、本人から昔の話を聞き、今までの人生における視野を広げ、利用者のたどってきた道を知ること努める。	家族の方が面会に来た時には、色々な話を聞き利用者の方が歩んできた道をしっかりと理解してケアに活かしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	業務日誌を毎日書きつづり申し送りの時間を取る事で一人ひとりの一日の過ごし方注意点を把握する体制を保っている。日常生活においての1つひとつの作業動作を観察し理解したうえで見守り時に補助をして自発的な動作を継続させている。	記録量が多いので、整理しながら必要な情報を記入していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	問題解決ノート・取り組みノートを出勤した職員が書くことによって、職員がお互いに思っていることを理解し考えることによりより良いケアに繋がっている。	○ 本人・家族の思いをしっかりと反映しその方の思いに添った介護計画を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者が状態が変化した際もそのつど見直しをおこなっている。計画書が出来た際はご家族に確認をしていただき、御意向を伺い計画書をより良いものになっている。ただ、家族への要望など記録として残らない部分がある。	面会に来た時など、家族の要望や本人の状況を確認しながら計画に反映できるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の方法を工夫しており、職員が書きやすくわかりやすいようにして、その方の言葉を残せるようにしている。	○	記録の必要性を理解し、必要な情報を記入できるように日々の記録を工夫していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近所の派出所にホームにいる利用者のことを伝えており、特別な状況においての協力依頼している。又、本人の意向というよりも、行事などが円滑に進むようにということでボランティアなどを利用している。	○	地域資源を活用して、本人の安全や生活範囲の拡大が少しでもおこなわれるようにしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて連絡を取れる体制が整っているが、他のサービスを利用はしていない。		現在、他のサービスを利用するといった考えが出来てなく利用者を考えどのようなサービスが現在あるのか?といったことを学ぶ必要がある。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂き、相談をさせて頂いているが、長期的なマネジメントなど協働はしていない。		まずは地域包括支援センターの方々とのコミュニケーションをはかりたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>今後も協力医療機関と連携を図りたい。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>適切な治療や診察が出来るように、協力医療機関の先生に小さな疑問をぶつけていながら受診や相談をしていきたい。</p>
45			
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>入院などないように日頃の健康チェックや安全を守っていきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>定期的にご家族（個別）と話し合いの場所をつくり話をしていく機会を増やしたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>グループホームで出来ること・やれることをしっかりと確認し家族と常に話し合いながら、グループホームで出来ることをしっかりと行なっていき、かかりつけ医と常に連絡を取りながら支援していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前調査を綿密にすることにより、利用者本位の今出来る最善方法を考えている。又、必要なものは家族の方に相談して、住みやすい環境を整えている。		過ごしやすい環境と安心できる環境には何が必要かしっかりと、その方の思いをしっかりと受け止めて不安を最小限にしていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時、又は失禁時の対応として適切な言葉で対応している。本人のプライド、又は周りの状況などを把握して行っている。記録の個人情報に関しては守秘義務を守り記録を保管している。	○	今後も職員同士がしっかりと点検して、利用者の方がプライバシーを保護していきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者へ声をかけるときは断定的な問いかけではなく幅のある答えやすいように工夫をしている。職員から季節感のあることなど話題の核をつくりそこから利用者の思いや希望をひきだす。		その方が自分の思いを表現したり、その人の思いに添った自己決定が出来るように、信頼関係を築いていきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状態の日内変動の特徴にあわせて、利用者が暮らす変動を認識し、流れを把握し安定したその人らしい暮らしを継続できるようにしている。		希望・思いを聞きだしながら、その日を大切に過ごしたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	本人の通っていた美容室や床屋など家族が付き添うか職員が同行している。髪型など家族や本人の要望を聞き季節や行事前などを考慮して通っている。衣類を着る際も本人に聞きながら選んでいただく。		出来ない部分をしっかりと見極めて、おしゃれが出来るように今後もしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の新聞の広告を利用し夕食を決めていたり、一緒に買い物に行くことにより好みをより深く理解している。準備や片付けにおいてもなるべく利用者の方たちにさせていただけるように見極めをして、利用者に向けた支援をしている。		メニューの偏りがあるので、偏らないようにメニューを考えていきたい。又、準備や片付けなどその人が出来る部分を活かしていきたい。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ・飲み物は個人の好みを理解して支援している。お茶などはコーナーをすることで好みのものをいつでも作れるようにしている。	○	タバコに関しては、個人の思いと家族の思いが別々にあり、それに対しての職員の共通した考えを模索し家族に理解を深めていきたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日頃の動きなどを細かく観察することにより排泄のタイミングを理解して誘導を行っている。おむつに頼ることなくトイレでの排泄を心がけている。	○	まだまだ排泄に対する知識など不足している部分が多く、今後は研修などに行き幅を広げていきたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の際はまず本人の意向を聞き対応をしている。菖蒲やゆずなどで季節感を出したりしている。	○	入浴という意識をもってもらううえで、もっと情報を提供して行きたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日常の利用者の行動などや精神状況を観察し休息の空間を作り導いている。		和室を活用し、静かな空間を作れるようにしていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	生活歴を考慮したうえで本人の意欲を引き出せるようなこと(外で羽釜にてご飯を炊いたり・外出・買い物)をしている。		昔からの生活に慣れ親しんだ自分の役割をその人が出来ない部分を支援して、その方の張り合い・自信になるように支援していきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>お金をある程度管理できる利用者に限って、補助を(小遣い帳をつける・郵便局に貯金をする)しつつ対応している。</p>	○	<p>事務所でお小遣いを預かっているので、お金を意識できる状況作りがまだまだあるので会議などで検討していきたい。</p>
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>ほぼ毎日、買い物には出かけている。又、玄関にベンチや花を植え、天気の良いときなどは特に外にでられるように働きかけている。</p>		<p>いつでも外に出かけられるような環境と気軽に「行ってくるから」と言える関係作りをしていきたい。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>計画書を作成し目的や意味合いをしっかりと考えたうえで外出する機会を作っている。その際にはなるべくご家族も一緒に外出できる機会を設けている。</p>		<p>その方の思い出の場所など、家族の方と一緒に行く機会を今後も作っていきたい。</p>
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>電話は気軽に事務所や子機などから掛けられるが、積極的に電話をかける事はない。手紙のやり取りなど支援していない。</p>		<p>現在本人自らといった機会がない。電話という存在を知っていただくことが必要。</p>
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>気軽に訪問できるような環境づくりの為に、行事を大切にしホームとの関係作りをおこなってきたい。</p>	○	<p>ホームに来られた際、居心地が良い空間作りがまだ足りない。(和室などを活用していきたい。)</p>
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の情報などを職員の掲示板に張り理解を深めている。</p>		<p>職員の考えではなく、しっかりと法律・基準を新しい職員にも理解して頂きケアに取り組んでいきたい。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開放しており、気軽に外に行ける様になっている。夜は防犯の為に閉めている。		その方の気持ちを常に考え、今どのような気持ちでいるのかをしっかりと認識しながら、ケアに取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士が声を掛け合い情報を密にし利用者の所在や様子を把握している。		関わりすぎている部分もあるので、個人の時間を大切にしていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	すぐに使用したいものはわかりやすい位置に、漂白剤等危険物はリネン室又は手の届かない高い位置に保管してある。		利用者一人ひとりのアセスメントをし、どこまでその道具が利用者にとって危険か把握する必要がある。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険回避のため、利用者によっては家族と相談し、居室ベッド下にセンサーマットを設置している。そのほかに研修やケアカンファレンスを開催している。		転倒を減らすために、どのような環境や気をつけること、又、日頃のヒヤリハットを活かしリスクセンスを高めていきたい
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルがあり確認し合っている。定期的に救急救命措置の講習に参加をしている。	○	研修やマニュアルを活かして今後も実施したい。又、新職員には訓練の機会を設けることが出来ていないので実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練を行い、職員の役割や避難経路の確認をしているが、夜間想定・場面設定での避難訓練はまだ不十分である。地域の方には運営推進会議の中で協力を呼びかけている。	○	場面設定をし、定期的に訓練を実施していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	管理者・ユニットリーダーによりご家族との話し合いをもうけ理解して頂けるよう努めている。		居室の空間・現在の身体状況を踏まえて安全に暮らせるように相談していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行っており、利用者の変化に気遣うようにし、ケース・温度版に記入し変化が見れるようにしている。又、体調の変化があった時はかかりつけ医に相談している。		継続して日々の様子を常に観察していくようにしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がそれぞれ処方箋に目を通せるようにファイルが用意されている。薬の変更がある際申し送りをおこなっている。又、DBGの用紙を使用し、薬が変更になった時の変化を記入し、主治医の先生と相談している。		薬の副作用・効果を確認し、主治医の先生と適切な薬が処方されるように相談していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	カスピ海ヨーグルトなど下剤に頼らない工夫をしているが、まだまだ職員の理解・知識不足がある。	○	研修を受けそこで得た知識を職員におとし、実践できることを模索していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎月歯科往診を受け口腔内の衛生を保っている。しかし、毎食後の口腔ケアは支援出来ている人と出来ていない人がいる。		まずは就寝前から、口腔ケアを必ず行い、徐々に毎食後実践していきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	少しでもその利用者に合った食べやすいものをと考えソフト食の活用・水分を摂っていただくために飲み物の多様化をすすめている。		活動量や水分摂取量を一人ひとりの状況に合わせてもっと確保したい。又、食事に関する勉強会を開催していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルが作成してあり、実行している。		感染症に関しては十分注意し管理していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生鮮食品は毎日買い物へ行き、夜間帯に冷蔵庫の中をチェックし期限切れなどの確認、調理器具をハイターなどで消毒している。食器や箸などについては1日1～2回は洗浄機にて消毒している。		器具の衛生をしっかりと管理していきたい。
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの玄関には色々な花が植えてあり、くつろげるようにベンチも設置してある。		もっと利用者が興味をしめすようなものを考えておいていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の出るような花を中庭に植えている。廊下には行事や外出した際の写真をはり、利用者の興味をひき、天窓を設けることで外の光をふんだんに取り込んでいる。		その方の状況に合わせて環境を整えていきたい。トイレなどは特に使いやすい環境を考えていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パーティションや和室にある幕の設置により、利用者にプライベートスペースをつくっている。利用者同士の関係を重視しきっかけ作りのほかは見守りにおもきをおいている。		暮らしやすい、過ごしやすい環境はどのようなものがあるか、その方の目線になって考えていきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居が決まった段階でご家族・利用者との話をもち居室作りをしている。</p>		<p>なじみの物とはどのようなものか、しっかりと説明し家族の方の協力を得て、もっと活用していきたい。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>ホーム内だけで温度計・湿度計を約10箇所設置して状況を把握している。又、臭いに関しては特に気をつかい、使用済みオムツなどはその都度新聞紙に丸め捨てている。</p>		<p>室温・湿度などは生活の中で影響を与える部分があるので、しっかりと管理していきたい。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーであり手すりの設置や入居者の状況変化に対応して手すり代わりになるものを置いたりもしている。手すりに洗濯物を掛けてしまう時がある。</p>	○	<p>トイレトペーパーのある場所などまだまだ職員本意になってしまっているところがあるため改善していきたい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>出来ること出来ないことを見極めて接しているが、定期的なアセスメントは出来ていない。</p>	○	<p>一人ひとりの出来る範囲をまだしっかりと認識しておらず、その場その場の対応となってしまっていることも多々あるために、個人個人のアセスメントを行い職員は共通の理解をしていきたい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>中庭の花壇には四季の花々が植えてあり(じゃがいもも)入居者の話題となっている。職員も外へとお茶を外で飲んだり、草むしりをしたり、料理を行ったりしている。</p>	○	<p>利用者が自ら外へ出られるような環境づくりをしていきたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	⑤その他 ()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	⑤その他 ()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	⑤その他 ()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	⑤その他 ()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	⑤その他 ()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	⑤その他 ()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	⑤その他 ()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	⑤その他 ()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	⑤その他 ()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方一人ひとりに対して、その方が生きている実感が持てるように全力で考えています。日常の些細な事、掃除、味噌汁作り、洗濯干しなどその中で役割を持って頂けるようにしたり、趣味を継続して支援したりしています。又、一人ひとりが心地よい時間が持てるように室内の環境やその方が昔作業していた音などを表現しています。一人ひとりの個性を大切にしながら、利用者の方々のコミュニティーを大切に、職員よりも利用者の方同士がお互いの心の支えになるように関係性作りをしています。そのために、専門職としての自覚と自信がもてるように、研修など自己を高める努力をしています。